

あふれる人、あふれる熱気 ―韓国汎国民大会

少し前のことになりませんが、八月十四日から十七日まで、815反戦平和国際連帯のツアーに参加して韓国に行ってきた。

【一日目】二四時間起きてしまいました

十四日は関空に七時半集合のため五時起床。一時半ごろ仁川空港に着

いてホテルに荷物を置き、昼食をとった後、戦争と女性人権博物館へ。ハルモニ(＊)たちの肉声メッセージや映像などがあります。

＊日本軍「慰安婦」にされた被害女性のことを尊敬の念をこめてこういいます

このあと「日韓平和討論会」に出席。お話を聞きました。

主に日米韓軍事同盟、日本の集团的自衛権が韓国に及ぼす影響、在日同

胞への差別政策について、どう闘うかといった内容だったと思います。

さて、旅行案内にはこの日「夜半、自主統一大会(前夜祭)」とあり、夜半で何時?まさか十二時じゃないよね?と思っていたのですが、そのまさかなのでした。

集会はショーのようで、司会がテンポよく進行。若い人が圧倒的に多くてダンスや舞鶴で沈没した浮島丸をテーマにしたミュージカルも上演されました。午前三時ごろ終了して四時ごろ帰館。次の日の準備をして寝たのは五時ごろでした。

六五歳(私の歳)でや



戦争と女性人権博物館に向かう道に張り出された来館者のメッセージ。



いっしょに叫ぶ平和と書かれた幕。



前二列は訪韓団



日帝侵略時代の様子を劇で

ることじゃないよなあと思いつつ興奮さめやらぬまま三時間ほど寝て、二日に突入。

【二日目】日本の再武装反対—汎国民大会

ソウル駅広場で午前十一時から開かれる民主労

総前段集会に参加。引き続いて十二時から同じ場所で開催される汎国民大会（主催：「6・15共同宣言実践南側委員会」「8・15自主統一大会推進委員会」）に参加しました。驚いたのは場所です。本当にソウル駅の階段を下りたところの広

場で行われていて、そこに入りきれない人が駅の階段も埋めています。日本だったら警察が絶対許可しないだろうなと思いました。

舞台上の看板の文字は「8・15汎国民大会／日本集团的自衛権反対／韓半島平和統一のために」

舞台上の幕は「8・15全国労働者大会／6・15、10・4共同宣言履行！／南北労働者自主交流を成し遂げよう！／日本集团的自衛権反対！／韓米日軍事訓練反対！／セウオル号惨事、聖域のない真相糾明！パククネ政権退陣！」です。

この後ソウル市庁前でデモをし、そこで行われる「セウオル号特別法制定のための汎国民大会」に参加しました。一日に二つの集会とデモというのも初めての体験です。（もっとも二つ目のデモはいったん行きかけたものの、時間の関係で私たちは参加しませんでした）

セウオル号の遺家族は真相究明と安全な社会を求めて特別法制定を望みハンストをしていました。この日の集会にも光化門広場で断食三十三日目

日本の集团的自衛権行使容認＝日本の再武装への危機感を強く感じました。

この後ソウル市庁前でデモをし、そこで行われる「セウオル号特別法制定のための汎国民大会」に参加しました。一日に二つの集会とデモというのも初めての体験です。（もっとも二つ目のデモはいったん行きかけたものの、時間の関係で私たちは参加しませんでした）

セウオル号の遺家族は真相究明と安全な社会を求めて特別法制定を望みハンストをしていました。この日の集会にも光化門広場で断食三十三日目

この日の集会にも光化門広場で断食三十三日目



ソウル市庁前広場に5万人。
写真はレイバーネットから

のユミンパパ、キムヨン
オさんが杖をついて登場
し、特別法が制定される
まで断食を続けると固い
決意を語りました。

後日、報道で四十日
に体調が悪化して入院、
四六日目に断食を中断さ
れたことを知りました。

日本ではこのような惨

事があっても、運が悪かつ

たと片付けられるような
ところがありますが、韓

国では国の責任が問われ
るんだということ、そし

て多くの人(しかも若い)

が共感して行動するんだ
ということに感銘を受け
ました。

他人のことじゃなく自
分のこととして感じる力、

そして新自由主義の社会
だからセウォル号のよう
な惨事が起きるんだとい
うことを理解する力、そ
ういうものが私たちにも
必要だと感じました。

【十一月号に続く】

(アート・アド分会 N)

10・21 国際反戦デー 港合同学習会

▽日時：10月21日(火) 18:00~

▽場所：田中機械ホール

▽講師：北本修二弁護士(大阪労働者弁護団)

▽港合同組合員は全員参加

国際反戦デーとは、1966年10月21日に日本労働組合総評議会(総評)が「ベトナム反戦統一スト」を実施し、それと同時に全世界の反戦運動団体にもベトナム戦争反対を呼びかけたことに由来する。港合同もストライキをもって集会・デモに積極的に参加し、以降、毎年欠かす事無く取り組んできた。

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう!